

No. 4

2003/11/10

LSKニュース 第4回関西労働社会学研究会のお知らせ

辻 勝次 (立命館大学) :ktt01750@SS.ritsumeai.ac.jp

鈴木良始 (同志社大学) :ysuzuki@mail.doshisha.ac.jp

日本労働社会学会の研究活動の一環である関西労働社会学研究会の第4回研究会を以下の要領で開きます。会員の方も会員でない方もふるってご参加くださいますようお願い致します。

日時：2003年12月6日(土) 1時から5時

場所：同志社大学 今出川キャンパス 扶桑館5F 506号室

報告者・報告主題

1. 徐 亜文氏 (広島大学大学院博士後期課程)

「中国における大学卒業者の就業の非正規化」

90年代初頭まで国家統一分配によって、国家機関、国有企業など国有部門だけであった大学卒業者の就職先は、近年、国有部門以外に私营、民营、外資など非公有部門が増え、就業先が多様化した。ところで、国有部門での就業は長期雇用を前提としていたが、非国有部門の雇用ではパート、アルバイト、派遣社員など非正規雇用を含む雇用形態の多様化が図られている。しかし、非正規雇用の場合には短期雇用の下で社会保障がない上に教育訓練もないため、大卒者の技能形成が阻害されていると懸念される。それにも関わらず、就業への圧力のもとで非正規雇用は先進国にみられる発展方向だとして促進されている。

2. 篠原健一氏 (大阪商業大学総合経営学部助教授)

「転換期のアメリカ労使関係」

篠原健一氏には『転換期のアメリカ労使関係 自動車産業における作業組織改革』(ミネルバ書房、2003年)の単著があります。GMのランシング工場における詳細なヒヤリングを通してチーム・コンセプト、先任権、労使関係などの最新の様相をまとめていらっしゃいます。

研究会のあとに、これも恒例になっている懇親会を開きますのでご参加ください。